

日八月二

# 常警日新聞

定額 一月五拾圓 三月十五拾圓 半年三十拾圓 一年六十拾圓  
 廣告料 五號十二字 第一行 金五拾圓  
 日曜祭日の日 金五拾圓  
 發行所 常警日新聞社  
 印刷所 常警日新聞社

## 三界は唯心造

眞繼雲山

佛門外の人々は三世因果説を一種の迷信と見るかも知れぬ、さうして現世における不公平不平等な吉凶禍福が單なる偶然とは思ひ切れぬ、さうして前世の約束を考へ出したとも考へらるゝ、しかし私としては現代の科學が因果の法則を否定し得ない限り二世因果の理法は無視することは出来ぬ。三世因果の一例として釋迦出でだんば今日の佛法はなほ三國の祖師高僧出でずんば釋迦ありとしても佛法は早く既に斷滅してゐたであらう、佛法なくば堂塔伽藍なかるべく然らば日本の歴史と風俗とは索漠、蠟を嚙むが如きものとなつてゐるであらう、斯うした關係においての三世因果は何人も肯定するに相違ないがそれを一個人の運命に持ち來るときそこには多くの疑義が生れる、第一は甲が死して來世に再生すると假定し五戒を修して人間に十萬男を惡事を働いておけば何時も一定の數量を維持してをらねばならぬではないかといふ風に考へる人がある、第二には往年の大震災のやうに何萬人の人々が同時一所

に慘死したるは前世における業因ひとしかりしか如何その關係についても首をひねつてゐる人もある。  
 左りながら佛教では人間死してその靈魂が犬や狼の腹中に轉じ入るなどといふお伽噺のやうな説をなすの

### ノート

ブルキア鉛引のものは鹽氣にあふと殊更サビ易いものですから熱湯の中で洗ひ磨砂か灰汁でみがいで乾かします

ではない。佛教の極則は森羅萬象、生死榮落は唯だ一心の造る所であるといふにあつてその論據として唯心論なるものを説く。唯心論は法相宗正依の所談であつて世事一切は唯だ心の造る

- 【朝】にしめ揚ゆばなまよ
- 【晝】雑多汁—豚肉 じゃが芋 大根 ねぎ 胡椒
- 【晚】焼きみそあへ—里芋 こんにやく

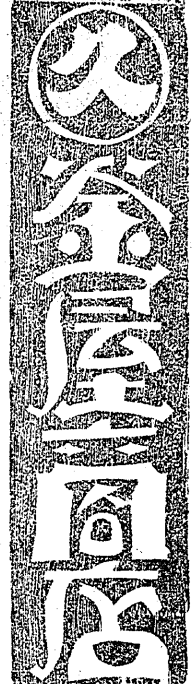
所である心の外に何物もあつてゐるのではないといふ、謂はゆる三界唯心造、心外無別法とする、その心とは識である、識は分ちて八識とするもその根本は第八阿賴耶

識である、阿賴耶は迷悟の二邊を絶す阿賴耶とは一切の根本種子である、その根本識が縁に觸れて活現する場合その迷ふたものが衆生即ち凡夫であり悟ればそれが佛となるの故に心と佛と衆生との三はもと一と差別あるものではないと説く、既に三界唯一心、心外の無別法である以上執すべき何業の實體はない、肉身があり社會があると考へてゐるのは依身を感じ社會を觀じてゐるに過ぎない、現在目前に嚴存してゐるものがその實は無いのだとは何んとして受けて難いがあるにはあつてもそれは假りに存するのであり、何んの日にも必ず無くなる時が來る、何億々年の後に地球が帳消となり一切が皆空となる日を想察し得るものは現世に一として何等の執すべき實體なきを了知するであらう

有るのは現在の認識だけである。正しき佛教の三世因果説はこの根底に立脚してゐるのであつて私が滅して次生に犬や猫に生れ代るのではない、甲が現世の業報を承けて甲の心が次生の世界をつくるのである、第一室で死に没したものが第二室に生れ出るのでなくして甲の瓢箪から出た駒が乙の瓢箪の世界をつくるの

である、造るといふのはその世界観が成立するといふことに歸する、業報を受けるといふことは因果に縛られることであり因果に縛るとは自分のつくる世界のために苦樂生死を感ずることである、成佛とは苦樂生死の繫縛から解脱することであり心外無別法である以上それは心の問題であるゆゑ富者貧者共に成佛の道はあり、同時にその成佛とは死んでからの未來漸ではなく

只今現在の問題である、それが解脱も成佛も出來ずに焼けたら死んだり苦しみといふのは天性愚鈍にして迷妄の致すところに外ならぬ、一念を轉じて三界唯心造なるを知るとき正覺の光によつても三世因果の道から抜ける事が出来る、抜け得ないといふのは生きたい欲しいといふ煩惱強威のたらしきによるのでそれ以外の原因はない。



磐城セメント會社特約店  
 磐城平町五丁目 電話九番九九番  
 □良品廉賣に勝る商略なし  
 □確實敏捷は人の生命なり

江戸前料理  
 錦水自慢の料理  
 水タキ 大和漬 もつ焼  
 鬼がら焼  
 錦水  
 電話四五四番

中村齒科醫院  
 平町鍛冶町七

御贈答に!!! 漆器を!!!  
 記念品に!!!!!! 諸景品に!!!!!!  
 誠實勉強 親切第一 在庫豊富  
 是非御用命を  
 ドコヨリモ、ヨイシナラ、ドコヨリモ、ヤスクウ  
 ル、又ルモノミセ  
 平町三丁目北裏(元郵便局裏通り)  
 各國産漆器 専門卸小賣 (共) 漆器店  
 店員募集 十三才迄位 小 店 員 三十才迄位 外 店 員

玉屋洋品店  
 平町田町通電話六五六番

外科 X 光線科  
 性病科  
 外科  
 平町田町 安齊外科醫院  
 電話四七五番

藤沼醫院  
 入院需應  
 内科・小兒科・花柳病科  
 平町紺屋町 電話五〇七番

# 兒童の爲めには

## 借金止むなし

### 十七議員の調印を受け

### 平第四校新築の猛運動

### けふ役場に陳情

既報平町の第四小學校新築實現の猛運動は益々火の手を揚げ本日左記八區長及び有志等廿四名は

長橋川角兼吉 南町齋藤寅治郎 一丁目比佐信太郎 二丁目山崎孝之助 三丁目梅原利三郎 四丁目松本愛三 鍛冶町酒井政之助 白銀町佐藤喜内

吉村安治郎 花澤五五六 荒川恒次郎 吉田寅之輔

▼陳情書

平町に於ける就學兒童は年々其數を増し第一第二小學校校舍のみにては狹隘を告げ昭和三年度入學兒童の收容に若し本校舎に二階を増築し應急の計畫を施さんとせし際に於て各方面に議論沸騰し平地に第三小學校を建設し兒童通學の至便を講ずべく全町一致輿論の下に南部東部の二ヶ所に敷地を下し之が先決先を競ひ一時は極めて競争劇甚なりしも同年一月の町會に於て圓滿妥協し優先權を東部に譲り現在の第三小學校を字正月町に建設するの實を見るに至れり其後同年七月の町會に於いて第四小學校の敷地を宇南町裏とし豫定地五千四百坪以内を買収し置く事尙昭和五年度より新築に着手する事に決議せしにも拘らず昭和八年の今月に至るも未だ是が施行案の噂だに聴かざるのみか最近仄聞するに本年度就

學兒童の爲め第三小學校々舎全部に二階建工事を施し收容するやの趣果し事實とせば曩に町會の

豊間青年修養 石城郡豊間村青年團では来る十日午後一時より役員會を開き豫算其他を協議し終つて修養講演會を開く筈

中總額は二千八百十二圓で耕作中最も多いのは馬鈴薯の五町歩で千八百二十圓次ぎが大豆の六十石八百四圓小豆の十石百七圓等であるが是等の作物は大半自家用の物である

農事講習會 終了式舉行

内郷役場にて

既報縣農時試驗分場及び本郡農會主催の農事講習會は去る四日より本日迄内郷村役場に開會されたが参加者百廿餘名に達し明九日午前十時より終了式を舉行する各町村別の修了者數は左の如くである

山田 上遠野 錦(各一名) 泉 勿來 川部 小名濱 磐崎 箕輪 神谷 四倉(各二名) 植田 江名 小川(各三名) 大野 高久 夏井 飯野 大浦(各四名) 赤井 草野(各五名) 鹿島 入遠野 湯本 平窪(各六名) 好間(各八名) 内郷(三二名)

世界館 新興キネマ時代劇嵐寛壽郎主演「抱寝の長脇差」新興現代劇中野英治 森静子主演「鐵の花輪」メトロ映畫「大平洋爆撃隊」

### 廢物利用の金を 義捐金に當てる

▼平第二小學校から

古物商に交渉済み

平第二小學校にては從來兒童から義捐金等を募集するに當つて生徒各自より一錢二錢と零細な金を集めて居たが今後は廢物利用の意味

からビールや化粧液等の空瓶を持參せしめて古物商に賣捌き是れが費用に當てる事となり既に古物商には交渉済みであると

### 悲しい凱旋に

### 平町が弔意を

弘前勇士の遺骨十一基 けふ平驛を通過

日支事變で戦死した弘前師團兵の遺骨十一基は郷里へしたので各種団体では驛頭歸還の爲め本日午後一時五

### 平町の食糧農産物

馬鈴薯が最も多い

平町役場で集めた同町内に作った食糧農産物の昨年

### 平映畫界

平館 松竹時代劇高田浩吉 千早晶子主演「足輕は強いぞ」日活時代劇大河内傳次郎 伏見直江主演「煩悩秘文庫」松竹トキキ 早川雪洲 田中絹代 主 太陽は東より

耳鼻咽喉科専門 大和田醫院 平町南町 電一〇七

質流れ衣裳類 一式 御仕立御祝儀物

旭屋衣裳店 三丁目通り 電話四二五番

太平生命外務社員募集 身体強健 眞面目な奮闘家を求む 入社希望者は左記に申出でられたし

平町二丁目地球堂内 太平生命保險株式會社

磐城方部事務所

磐城共濟病院案内 院長 醫學博士 石山謙 院址 石山 自宅(電話一二四番)

内兒科 醫學博士 石山謙  
外科耳鼻咽喉科 醫學博士 佐久間次郎  
喉科皮膚科 醫學士 桂馬重  
産婦人科 醫學士 有馬勇二  
X光線科 醫學博士 五十嵐雄  
衛生試驗所 技師 石山謙  
藥局 技師 石山謙  
診療時刻午前八時より午後五時迄 但急患は此の限りに非ず

平町 磐城共濟會 電話六四一番

# 人夫ヤーイ!!!

## 匡救事業に人不足

既報石城郡磐崎村地内藤原川の改修工事は縣營農村振興事業として三十萬の大工事中であるが縣當局ではなるべく地方失業者の救済を主眼とし毎日三百餘を就業せしめる豫定であるが最近では舊正月氣分で地元民が一向就業せず外來の失業者も各地の匡救事業に出働して動ぬ處から連日人夫五六名宛の不足を生じ對策として平職業紹介所にも人夫募集方を依頼し來つた

### 武田辯護士が 検事時代 顧みて語る

十三日會の講演 平町十三日會例會は來る十日午後六時よりマルトモホールに於て開き辯護士武田清次郎氏の「検事時代を顧みて」と題する講演がある

## 十七才の空巢賊

贓品を二足三文に賣つて

### 湯本や内郷を荒す

石城郡内郷村大字高坂字館野春藏三男鈴木辰吉(七)假名は去る六日に同字居住坑夫田口甚三方不在中に忍入り銀時計一ヶ時價三十圓を窃取したのを平署員檢舉され本日取調中であるが同人

## 火打合に俄然反對

漸く緩和して二日間丈

既報石城郡四倉町の恒例火打合は一種の蠻風であるとして同町内に廢止論が起り相當共鳴者が多かつたので一時は實行不能に陥つたが其後漁業關係者が反對緩和を足の結果昨十三日と今十

### 湯本町に 鼠賊横行

石城郡 湯本町 宇領城居住木炭商山名政義

方で去る六日午後五時頃家人の不在中に何者か忍入り外套と窃取逃走したのを家人が歸宅して發見した處隣家の吉田豊吉外でも長靴一足を窃取されたので届出により目下平署で此の空巢賊を捜査中

### 第一海軍志願 平第一小學校より本年度海軍志願兵試験に應ずる者左の如くである

寺門友己 渡邊三好 有

## 御馳走やお伽噺

りふ第二校の針供養

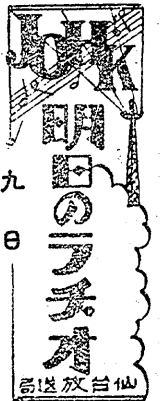
平第二小學校にては既記の如く本日針供養を催し生徒等の料理實習に依つて作られた御馳走で舌鼓を打ちながら裁縫室で座談會を開いたが低學年生に對しては川崎小鳥氏を招き童話會を催した

## 精神修養 出席申込

平町第一回精神修養講習會は既記の如く本日午後三時より明日午後三時迄仲間町九品寺に於て開かれるが申込者は男子二十八名、女子四十三名である

### 田樂目當の 鳥小屋祭り

けふは 舊曆正月の十四日平地方の風習である鳥小屋祭りで田甫の中には炭俵の小屋が各所に出現夜は田樂目當での參詣で



明日のラジオ 今夜は南東の風曇り明日は北西の風 天氣良くなる

### 今晚の部

後六、〇〇 子供の時間 お話「ローマ字」二 岡倉由三郎  
後六、二五 英語講座「初等科」岡倉由三郎  
後七、〇〇 講演「滿洲里 龍城の想ひ出」前滿洲里 我佐武郎 佐藤福見

### 明日の部

後九、三〇 時報 全國ニエース 氣象通報 番  
前九、一〇 料理献立「ピジョンスカロップ」朝倉長吉  
前八、三〇 家庭講座「編物の變遷と流行」西村清三郎  
後八、五〇 聲色「吹き寄せ」哥澤芝壽春  
後八、五〇 連續講演「大岡政談天」坊(第三席) 神田伯龍

### 恩師招待晚餐

平商業學校教諭中村政、一丁目伊藤軍治、飯野小學校校長谷川政、小島吉田安晴の諸氏發起となり明日午後四時より内郷館に於て高坂小學校時代の同級生相集り舊師にして目下好間村小學校在職中の宮田喜中氏を招待し恩師晚餐會を催すと

### 平裁判たより

石城郡江名町町字地町百十七番地佐藤文治方自動車運轉手今野專治(三)は去月二日茨城縣平磯町附近に於て同乗せる助手松村仙吉(三)に運轉させた爲め自動車取締令違反として專治は罰金三十圓仙吉は罰金二十圓に本日夫々處分された  
既報數名にヌリを働かした石城郡内郷村大字宮字代

## 至急募集

一、活版印刷見習員 二名 但し年齢十五六歳の強壯な少年

## 右至急募集す (詳細)

## 常磐毎日印刷株式會社

- △農夫 二十前後 尋卒 給料面談(江名町某)
- △印刷従事 十六才 高卒 仕着小遣(平町某)
- △商店員 二十才 尋卒 月五六圓(東京市某)
- △回職を求める方
- △精米雜役 二十才 尋卒 給料面談(磐崎村某)

# 三井タクシ

電話 八六五番

- △活〇工 三十五才 高卒 給料面談(大浦村某)
- △漬物賣子 四十才 高卒 給料面談(耶摩郡某)
- △郵便局集配手 二十三才 高卒 給料面談(湯本町某)

- 「哲學とは何か」(三) 東大 講師 大島正藏
- 後五、三五 受驗講座「代數」松村定次郎
- 後六、〇〇 子供の時間 お話「初午」高橋忠衛
- 後六、二五 英語講座「中等科」片山毅
- 後七、三〇 講演「ジュネーベ」の土産話—小室誠
- 後八、〇〇 管絃樂—日本放送交響樂團—
- 後八、五〇 連續講演「大岡政談天」坊(第四席) 神田伯龍
- 後九、三一 滿洲より

# 幕末剣術

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演  
近藤紫雲畫

第二百六十二席 千葉周作

敵を討つてお仕置

千葉周作先生は津の宮より潮來に渡り其當時有名な詩人宮本茶村先生の許を訪はんとするが、船を雇はねばならぬ、そこで支度を致しながら茶屋から頼ませやうと柏屋と云ふ料理店に入りました

女「入らつしやいませ、こちらへ御出で下さいませ」

女中が案内して川を見はらした座敷に通す

女「今日は好いお天氣でございます」

周「快晴致してよいの」

女「旦那様は潮來へお出でになりますか」

周「左様潮來へ参るものであるが、船を雇つて貰ひたい」

女「お船で御座いますか、こちらの船頭と潮來の船頭衆との間に面倒な事が出来まして船は出ないやうでございます」

周「それは困つたな、これ喜助、船は出さぬさうだ」

それを聞いて供をしてゐた喜助が

喜「それは飛んだ」とございませぬ、船がなければ渡る事は出来ません、これでは先生、今日はこの津の

周「この邊に参ると川魚は

宮におとまり遊ばして船の出るまで御待ちなされるとも佐原に引返しておとまりなさるとも、それでなければ小見川にお出でになつて船を雇ひさうして潮來にお出でなさいませ」

周「ウム、さういふ事に致さうかの



コレノ、女中酒を持つて来てくれ、それに何ぞ肴を見つくるつて」

女「畏まりました、お肴は鯉汁に鱈の蒲焼でございます」

周「この邊に参ると川魚は

かりだな、何ぞ他に口に合ふ魚はないか」

女「玉子でも焼いて参りませう」

周「それもよからうか、よろしく頼む」

茲で女中は酒を持つて来る、間もなく肴を持つて来た

周「喜助、一杯飲め」

喜「御馳走様でございます此の二三日は鯉と鱈ばかり食べて居りますな」

周「何うも當所の名物であるから、これを嫌うては食するものがない」

喜「左様でございます、角船頭衆

女「死んだものもございましてそれゆゑ面倒な事になりました」

喜「成る程死人が出ては面倒な事になるであらう、幾人喧嘩をした、定めし多勢だらう」

女「イーエ二人でございます」

喜「そんな小さな喧嘩で船を止めると云ふのはをかしいな」

と話をするとこの座敷の向ふの部屋にドカ／＼と入つて来たは七八人、土地の者と見えてまことに打解けてゐる

周「困つたの、これは何うしたものだらう」

△「何しろ相手が水戸様御領分だから内濟では済むめえ、氣の毒千萬な、下手人にならざるなめえ、こんな判らねえ事はなからう、親の敵を取つてお仕置を受けるとは不幸な奴だ、又あの爺め、一旦死んだものだ蘇生らすともよからうにあの爺が氣がついた爲めにこんな騒動も出来た、馬鹿な話だな、イヤ待て、ハエナ向ふ座敷にござつしやはお玉ヶ池の先生だぞ」

△「何だお玉ヶ池の先生とは」

○「江戸一の劍術の先生、千葉周作様だ、あの先生は水戸様へもお出入りをしてゐるだから、この事を話して先生に口をきいて貰つて野郎を助けて貰ふかな」

△「さうかそれはいい方が来さした、お願ひ申してみろ」

喜「怪俄人、出来たかえ」

と云はれて周作の居るところへ入つて来たは四十四五になる男

○「あなた様はお玉ヶ池の先生でございますしたな」

周「左様、千葉周作である貴公は誰か」

○「わたくしはこの主人五平でございます、三年ばかり前江戸へまゐりました時に村松町の刀屋でお目にかつた事がございませう」

周「ウム、そんな事があつたな、村松町の山城屋とは俺は年來の懇意、鏝を見にまゐつた時に貴公に會つてへお基をたゝかはした事がある、當家の主人は貴公か」

五「左様でございます、わたくしがこの店を出して居ります、實は此の頃に先生のところへ参りましたも話いたさねばならぬこともございませぬ、さうでお目にかかりましたは幸でございます」

要あり氣に申しました。

今度左の様な献立に寄りましてせいで、お氣に召します様に勉強致します。何卒御尊來御試食の程伏して御待ち申上げます。

ひな鳥

水たき 御一人前五十錢 二人前ヨリ

新鮮

鯛茶漬 御一人前五十錢

料理四品酒一本付 金壹圓

◇料理は毎日献立を替へて調理致します

◇御宴會出前は如何様にも御相談に應じます

割烹旅館 住吉屋本店

電話一五九番

## 小兒科。内科

特ニ乳幼兒ノ康健相談ニ應ズ。

平町 ねずみ坂

渡邊醫院

電話一六一番

## お醬油は ヤマフル

醬油味噌  
たひら 正宗  
鯉節 食料品



鹽屋 山崎合名會社

福島縣平町電話營業部二〇醸造工場  
明治生命磐城代理店 山崎與三郎